

# 観自在

弘長寺寺報  
第十二号  
平成十八年  
一月

## またもやお宝ザツクザク

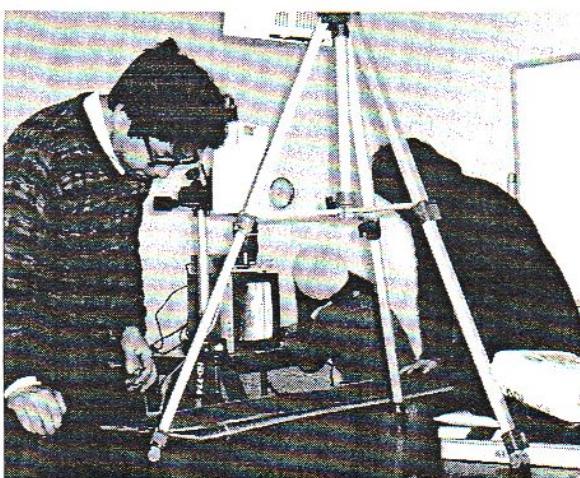
弘長寺住職 森田裕光

明けましておめでとうございます。

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

昨年は、お陰様で念願の阿弥陀堂を建立することができ、改めて感謝申し上げます。ご法事の際、お寺参りの最後に阿弥陀堂にてご先祖位牌の前で読経をするのですが、ご親戚の方々はどなたも声を揃えて感嘆の声をあげられます。最近はその声を聞くのが楽しみの一つとなっています。県重文指定に向けての製本作業も順調に進み、三月末には出来上がる予定です。

さて昨年末、特別淨財喜捨を賜りましたので、阿弥陀堂ばかりリニューアルしては申し訳ないとの思いから、本尊様（聖觀世音菩薩）の周辺飾り（法被・須弥壇打敷・前机打敷等）を新しく取り替えました。普段は法被がしつかり貼り付けてあつたことと、畏れ多い思いもあり、法被の入り口周辺しか淨巾拭きをしていなかつたのですが、その法被を外した本尊様の奥から何と多数の棟札が出てきたのです。本堂の棟札は屋根裏にあるもので、二十年前の屋根替えと天井修理でも、その存在を当時の私は全く認識していなかつたので、無いものと思いつこんでいました。



X線にて解読中の松本先生、県立博物館にて



安部榮四郎氏の孫、己図枝先生が島大名誉教授・錦織農学博士と共に来山、写経の紙に感嘆される

かれたのだと判りました。結局本堂は七世中興梵應泰音大和尚代、安永二年（一七七三年）に改築されたものと判明、二百三十三年前の建物です。その棟札は一枚あり、もう一枚は喜捨名が裏表にビツシリ書いてありました。全部お米の喜捨で、お米を集めてお金に換金したのではありませんかと古文書解読の松本先生は話されています。私は素人考でメインの棟札（改築経過が漢文で私が書いている）の方が重要だと思うのに、先生は「こちらの方がすごい」と喜捨名札に感激され、そちらから解説が始まり、薄れて読めない箇所は博物館にてX線照射にて解説をされました。（一月十七日）墨が薄く判読難解な秋葉堂の棟札も博物館で見ていただき、八世泰山大安大和尚代の改築と判明しました。枝先生を通じて、四国で化学分析をお願いしました。素材は「こうぞ」百パーセントだそうです。安部先生にも原稿をお願いいたしました。出版に間に合うように次々とお宝が出現するのも、阿弥陀様のお陰だと思っています。

## 新年のご挨拶

弘長寺護持会  
会長 武田民三

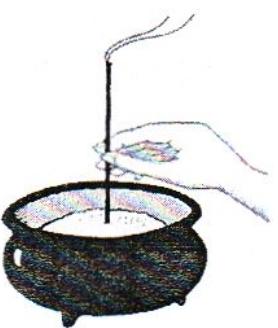
檀家の皆さまには、ご家族お揃いにて清々しい新年をお迎えのことと心からお慶びを申し上げます。

例年正月三が日は早朝五時から当山にて厳修される大般若会に、今年もお参りし、大般若の転読功德力を授かり、眞にありがたい気持ちで新年を迎えることができました。

昨年は、皆さまの総力が結集され、積年の阿弥陀堂改築事業が完成いたし、また阿弥陀像とその胎内銘及順調に進めていただき、タイトルも金寶山弘長禪寺「阿弥陀如来座像」と決まり、年度内には発刊の運びとなる予定であります。

大聖東堂さまの退董の儀など十八世大心裕光方丈さ

まの晋山式を併せ、これ大事業の遂行は、檀家の皆さま、役員の皆さまの力強い支援の賜と、新年を迎えて改めて心から感謝を申し上げる次第であります。



新しくご就任の委員様方に、十分ご配慮をいただかねばならない重要な問題と思われます。ちなみに庫裡の耐震補強工事は、昨年のところで法人並びに森田家にて対応していっているところです。

新しくご就任の委員様方に、十分ご配慮をいただかねばならない重要な問題と思われます。ちなみに庫裡の耐震補強工事は、昨年のところで法人並びに森田家にて対応していっているところです。

新しくご就任の委員様方に、十分ご配慮をいただかねばならない重要な問題と思われます。ちなみに庫裡の耐震補強工事は、昨年のところで法人並びに森田家にて対応していっているところです。

新しくご就任の委員様方に、十分ご配慮をいただかねばならない重要な問題と思われます。ちなみに庫裡の耐震補強工事は、昨年のところで法人並びに森田家にて対応していっているところです。

今年、平成十八年度は弘長寺護持会役員改選の年であります。

護持会会則第七条の規定に従い、地区委員をはじめ、各役員が選出されることとなつております。

各地区におかれましては会則第五条の定めるところにより、地区の皆さまには、それぞれにご協議のうえ、年度内にはご選出を賜りますようお願い申し上げます。

社会制度は、中世末頃に川幕府の民衆支配の末端部



ありがとうございました。  
合掌

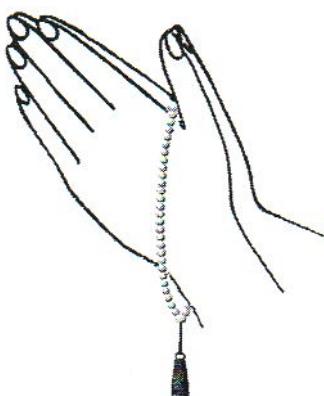
護持会役員改正の時  
期現となりました。  
感を・晋任期●  
謝遂出山期在の役員  
連絡にたて次謝の行版式期在の役員  
下護だ速期役員間に中、阿弥陀堂董方には  
持き、かに大事業築・は  
い。会事三月決定していいただき、  
務局未日へごまて区



した。阿弥陀堂で移動可能  
になります。机の上に安置してあ  
る阿弥陀堂に入られました。  
この文殊様に手をお合わせ下さい。

あうて真け呴<sub>ニ</sub>ににれがわ<sub>一</sub>  
ついは宗たい<sub>一</sub>感つるとれ自  
たえ困の<sub>。</sub>てナ<sub>ジ</sub>な言さぬ然  
ばる宣<sub>曹</sub>いン<sub>洞</sub>らが葉ん空と  
私<sub>：</sub>宗<sub>洞</sub>たマ<sub>ら</sub>れまつは<sub>一</sub>の共  
はそ<sub>う</sub>して宗<sub>答</sub>ダ<sub>一</sub>て全等心に  
曹<sub>洞</sub>かも管め<sub>一</sub>良発<sub>一</sub>あり  
宗<sub>、</sub>長を<sub>：</sub>よ寬<sub>一</sub>とら  
でそつが受<sub>と</sub>う様<sub>一</sub>

如の橋大族護<sup>ムツシマ</sup>、主月件心偽<sup>ハタキ</sup>装少<sup>カサヒ</sup>女誘拐殺人事件<sup>ハナシキ</sup>など、や  
深後き薬清禪本等持於催<sup>ムツシマ</sup>、がが建築疑惑事件<sup>ハタキ</sup>など、や  
くでじつであります。島根県第二宗務所<sup>ハタキ</sup>中で昨年十事  
効いてくりと、強<sup>ムツシマ</sup>くで涼師山五会<sup>ムツシマ</sup>にあらざ漢<sup>ムツシマ</sup>・薬市一<sup>ムツシマ</sup>・の販服板前寺<sup>ムツシマ</sup>・會所<sup>ムツシマ</sup>  
くので強<sup>ムツシマ</sup>くであります。あらざ漢<sup>ムツシマ</sup>・薬市一<sup>ムツシマ</sup>・の販服板前寺<sup>ムツシマ</sup>・會所<sup>ムツシマ</sup>  
くので強<sup>ムツシマ</sup>くであります。あらざ漢<sup>ムツシマ</sup>・薬市一<sup>ムツシマ</sup>・の販服板前寺<sup>ムツシマ</sup>・會所<sup>ムツシマ</sup>



住職合掌

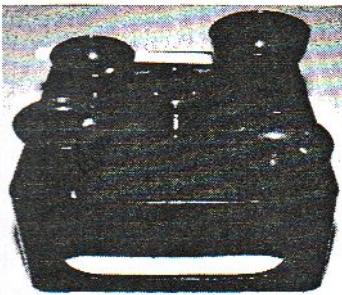
しののまかだ持様  
た。もおすを日ちもそ  
の話かお々で宗う  
だはら示をな派い  
と正、し如かのえ  
強に板に何つ意ば  
く高橋なにた識道  
感祖禪つ行しな元  
じ道師てず、ど禪  
まそ様いるたお師

板橋禪師様の  
講演

佛教豆知識

靈供膳の並べ方をもう一度教えてください

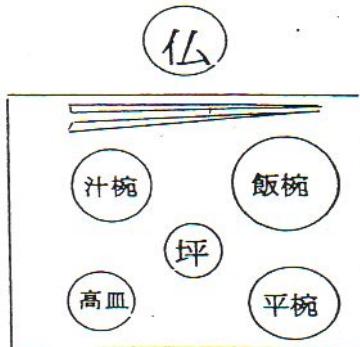
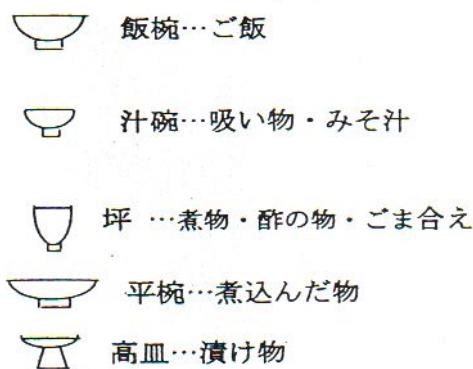
向答 や つかつてお供え致します。曹洞宗では仏様の方にお箸  
ボの 坪つ少肝心なが高く深い皿：坪  
ボ（肝心）です。曹洞宗では仏様の方にお箸  
によくお間違えになるのは、坪と中の中の器。  
ここに汁を入れてしまふ  
ことです。ここには和え物や酢の物  
を入れます。平椀は高で物ごと煮てます。  
平椀は皿で物ごと煮てます。漬け物などを入  
れ側平の向こう側は平の向こう側は  
ま方文と違つてゐるものがありま  
すのでご注意下さい。



いが上で答  
寝て仏に上の  
棺は様三に敷祭壇れ  
のいいや角敷物一の壇お  
際け賓形の祀り方壇  
の死い客二の角も同高  
者の方を相じて  
者がす。向い手で坏法  
かぶるてのすの事

仏文具屋で購入された説明書は、曹洞宗の正式な置き方との違いについて記載されています。

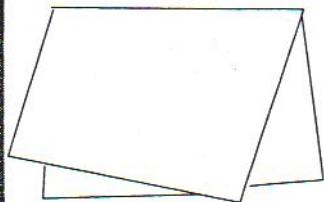
問  
「お客様に三角形の紙の懐紙を出す  
とき菓子皿の上に敷くと  
どちら向きに出すか？」



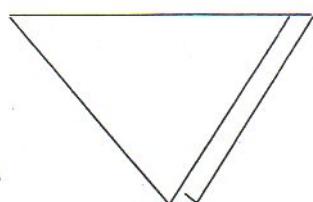
再揭載



仏 お客様



仮 お客様



自分

高壇に紙を敷く場合  
当然向こう側が仏様です

三角頭巾も同じです。当然なのです。身体と反対方向に（頭の先に向かって）角が来ます。そして肝心なことはいざれの場合も必ず左前です。お客様から見ると右側が前（へ上に）くるのです。そしてそれはお仏壇の仏具でも同じことが言えます。線香立ても三角形の角がこちら向き、底辺になる方が仏様向きなのです。

心の汚れた者は

## 生活しやすい

しく、人を責め、太  
胆で、心の汚れた者  
は、生活しやすい。

恥を知り、常に清き

をもとめ、執着を離れ、  
つつしみ深く、真理を見て清くくらす者は、  
生活しがたい。

仏典「ダンマパダ」

上法話

自力と他力  
住職

○自己をはこびて万法を修証するを迷いとす、万法す、みて自己を修証するはさとりなり

現成公案  
正法眼藏

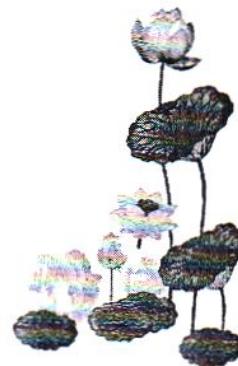
難しい言葉のようですが、簡単に意訳をすればこうなります。自分で悟つてやるうなどと思うことを迷うのだ、そうではなき佛様を信じておまかせをすることを悟りといふのだ。

（迷つてひたずらに行なうことを迷行する）といふのは、自力には限界があると思つてしまひます。しかし、この部分は存在するから、他力の部分にも自力の部分と他力の部分とに分かれます。つまり、自分の宗派に自分を引き起こすのは完璧だと思ひます。

お釈迦様にしても、悟りを開くには、心服すべきことは悟らぬことなし。師様にしでありますたが、心服すれば、悟りを開發する道元禪師の教義です。

れお命師匠（  
て師が様様正道  
帰匠け）（法元）  
国様のに中（  
さか修相國を師  
られ行見天身様  
ま悟をさ童にも  
ましりをされる：け物  
た。証明そで淨お仏  
さのは禪師法

いをか大捨こ苦よだ  
だ見せ自てと行りつ仏  
ろつて然てが（禪て教  
うめ（（大で自定菩の  
から他大自き）入樹提祖  
れ力宇然ず、で下るにてお坐禪迦  
た（（宙の）中そりたの坐は、に様  
か静（（中）で、苦行を開く、に様  
らかに身そのをまは、に様  
でに自らまは、に様



であつて、決して行を修めて（おさ）めるこにはなつていな

かなひ世我○  
、にけのらし  
三をる諸がづ  
世と道仏身か  
にど理と心に  
はこあおはか  
へほりな、へ  
だる、じまり  
た処くこみ  
れと中おとれ  
りし略こにば  
とてな

行氣既 同 仏生力し  
をづに親じそ教きを「他  
説か救鬱だれは方いは佛力で終わつ  
かれわ聖と思は淨土宗系の宗派も  
れれ人はうと自力でする」め  
感てはます。がの他を  
感謝い報る今この私  
た。恩身のだの念仏と  
まし

「されば最高の生き方が出来、どうすれば救われるのか」を説き続けられたのです。」つまり私はこう思うのです。



合掌

すものい諸の 師仏同 のは行な思  
°進世ら仏修そ様のじそ思じ道のいし  
み界れと行うは心なのいめへだでか  
たをまのを言説とら修がて修へはし  
いあせ隔思わか同比行一自行諸なそ  
もこんたうれれじ、が致他へ仏くれ  
のががりとててだ自諸すへのにては  
でれ、を、もい、分仏る自中本諸自  
ごて自感余るとのの分に心仏分  
ざ一他じり我道心修だ。とあでの勝手  
い歩一ずにが元は行 佛つあ思手  
まで如にも身禪諸と

自分は、本当に三世の諸  
仏と同じであると言えるし、諸  
仏と同じく生きてきたの  
だ。